

精神疾患は「現実」か、 それとも「虚構」か？

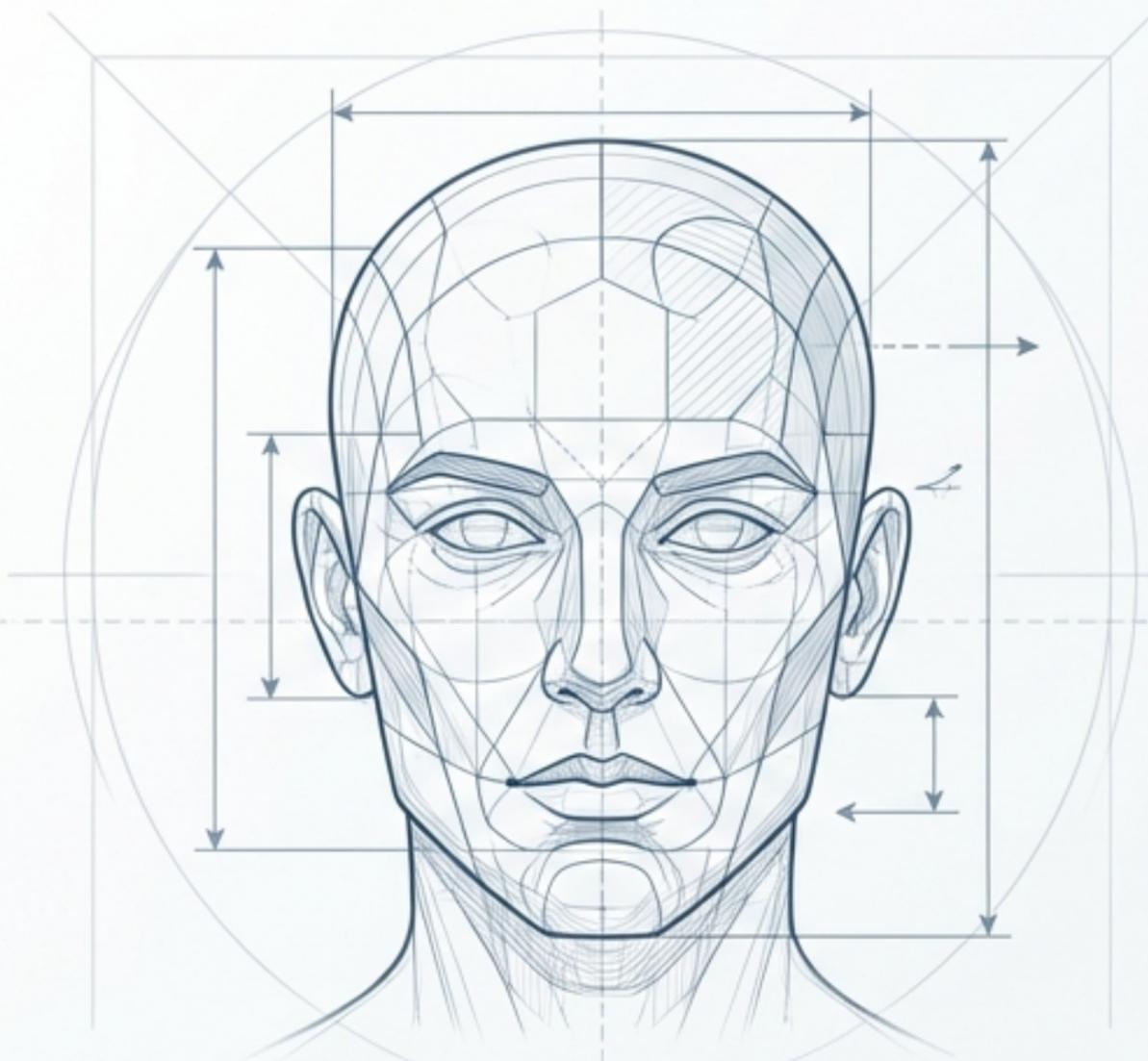
認識論における「5人の審判」の打破と、
科学的アプローチの再構築

ナッシル・ガエミ (Nassir Ghaemi, M.D.)
タフツ大学精神科



Point X

精神医学の基盤を揺るがす、一つの根源的な問い



「構成物（コンストラクト）」

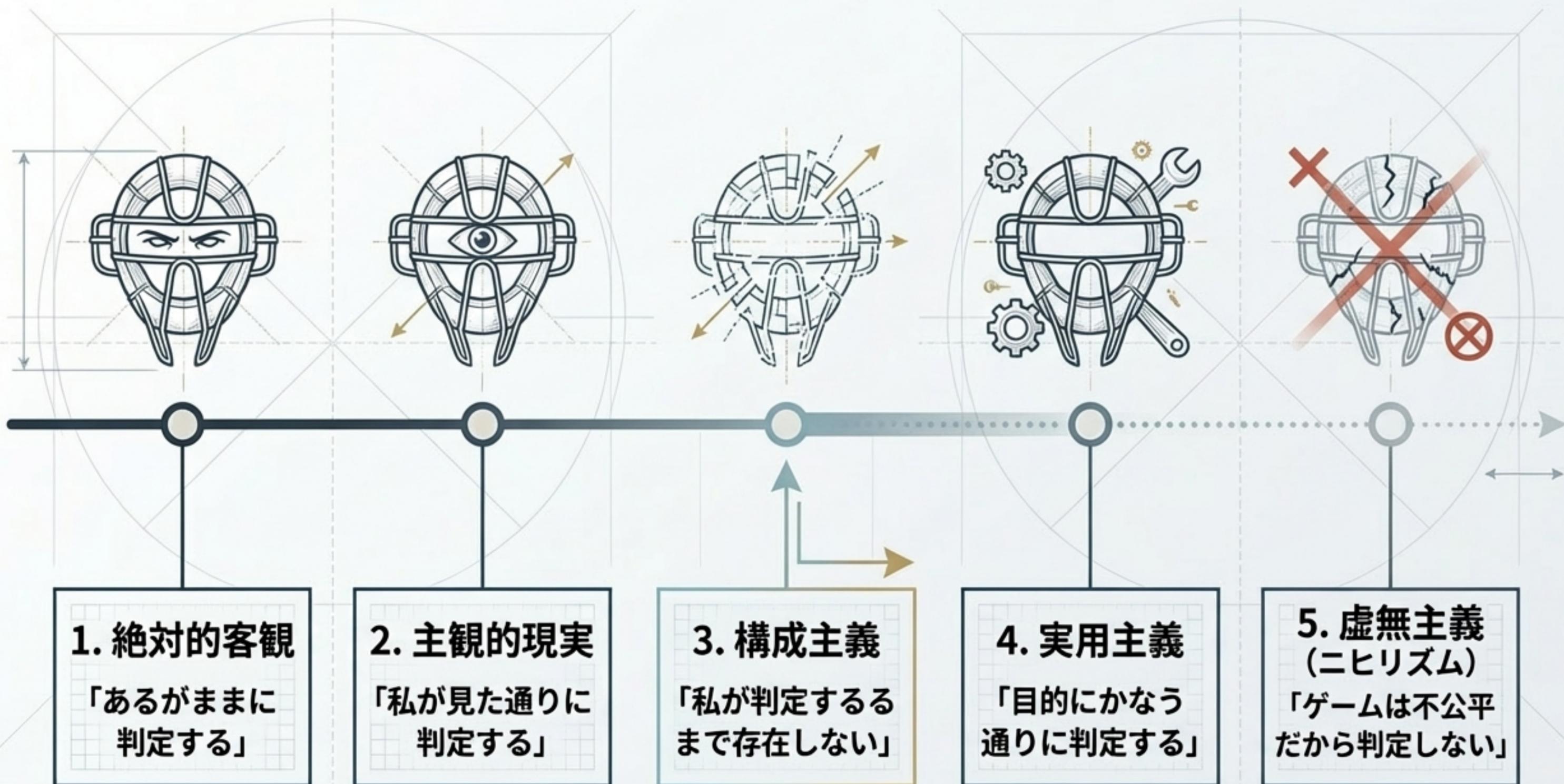
人間が社会や文化の中で作り上げた
枠組みに過ぎないのか？



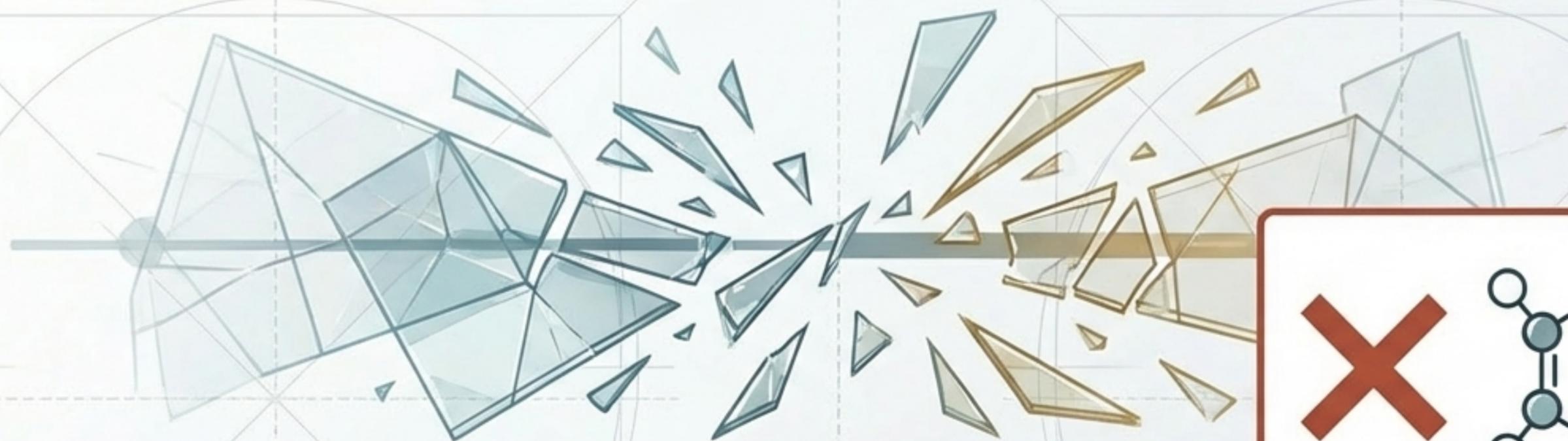
「疾患（ディジーズ）」

観察者とは無関係に、独立して
存在する生物学的な実在なのか？

認識論における「5人の審判」のスペクトラム

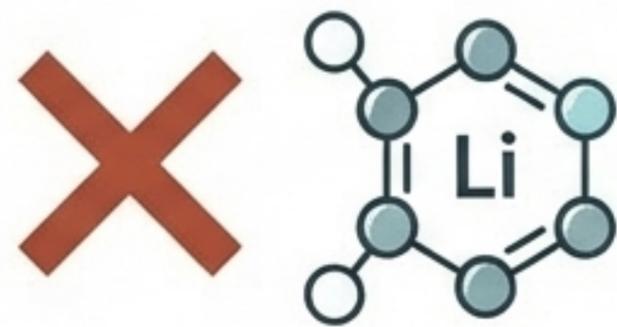


間違ったメタファーは、真実への視界を奪う



「真実とはメタファー（隠喩）の
移動軍隊である」—— ニーチェ

審判の比喩は、精神医学を「ルールの変更が可能なゲーム」に
貶める。ポストモダニズムの極端な信奉には都合が良いが、
現実の物理的法則には通用しない。



現実の壁

「ルール」をどう変えようと、
リチウムを大量に服用すれば
確実に中毒になる。真理は
ゲームの外部に存在する。

疾患の独立した存在を証明する3つのアプローチ



実在を否定するならば、医療そのものが成立しない



精神疾患の現実性を否定しながら、有害な副作用を伴う薬物を使用し続けることは倫理的に許されない。

事柄に「真実」が存在しないのであれば、専門家として特別な知識を持っていると主張する根拠も失われる。我々は即刻、患者から対価を受け取るのをやめるべきである。

新たなパラダイム：「認識的反復」という指標

認識的反復 (Epistemic Iteration)

— ケネス・ケンドラーの提唱

科学的プロセスとは、
単なる社会的な構成物の生成ではなく、
「知識の連続的な段階を通じた、
「知識の連続的な段階を通じた、
現実（リアリティ）への近似」である。

目標なき科学的迷走：「ランダムウォーク」の罫



ランダムウォーク（迷走）

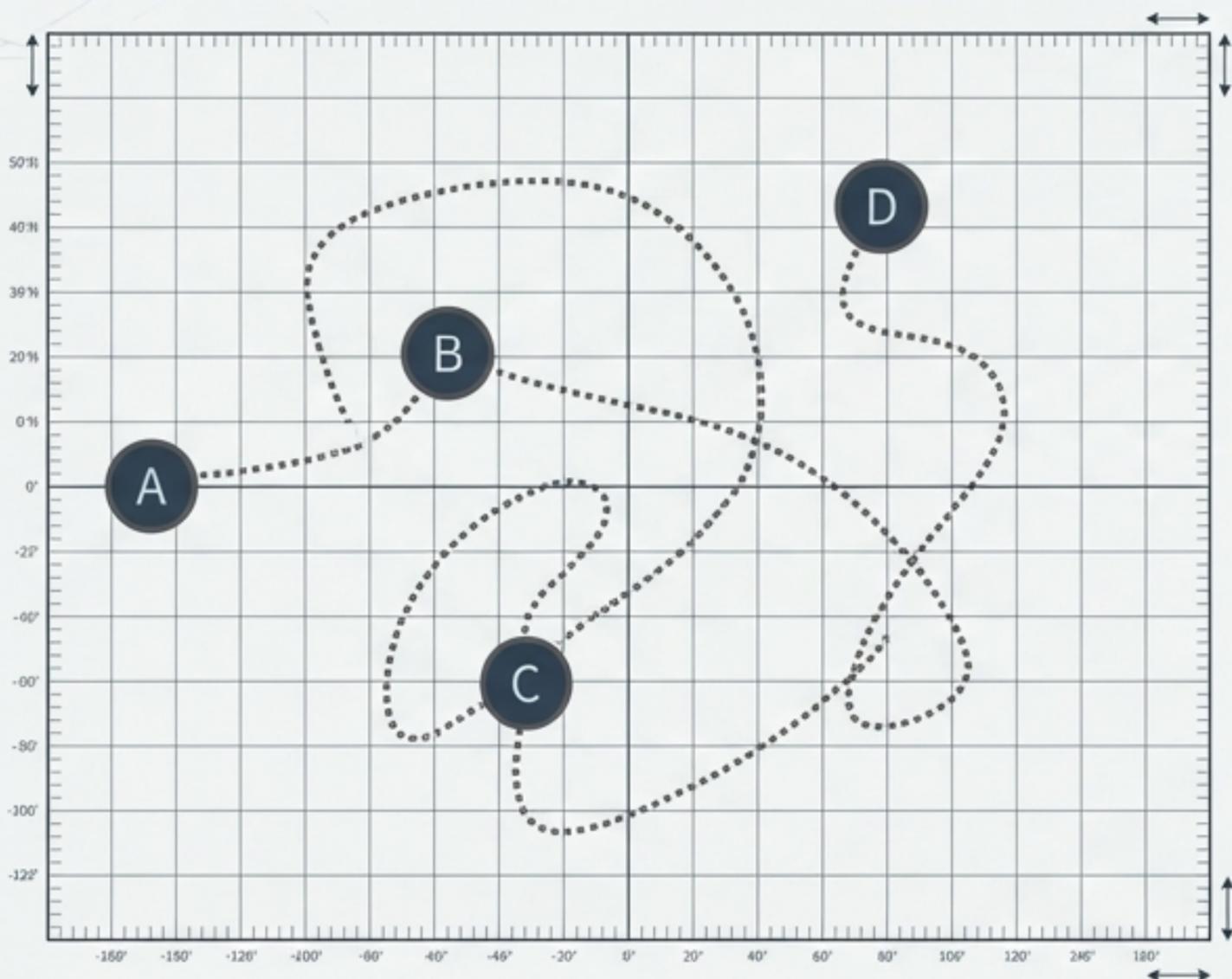
目標へ向かう引力が全く存在しない状態。もし精神疾患が純粹な「文化的想像力の産物」に過ぎないなら、科学的研究は無意味な反復運動に陥る。

倫理的デッドエンド

真実が存在しない世界での医療行為は、単なる暴力に等しい。

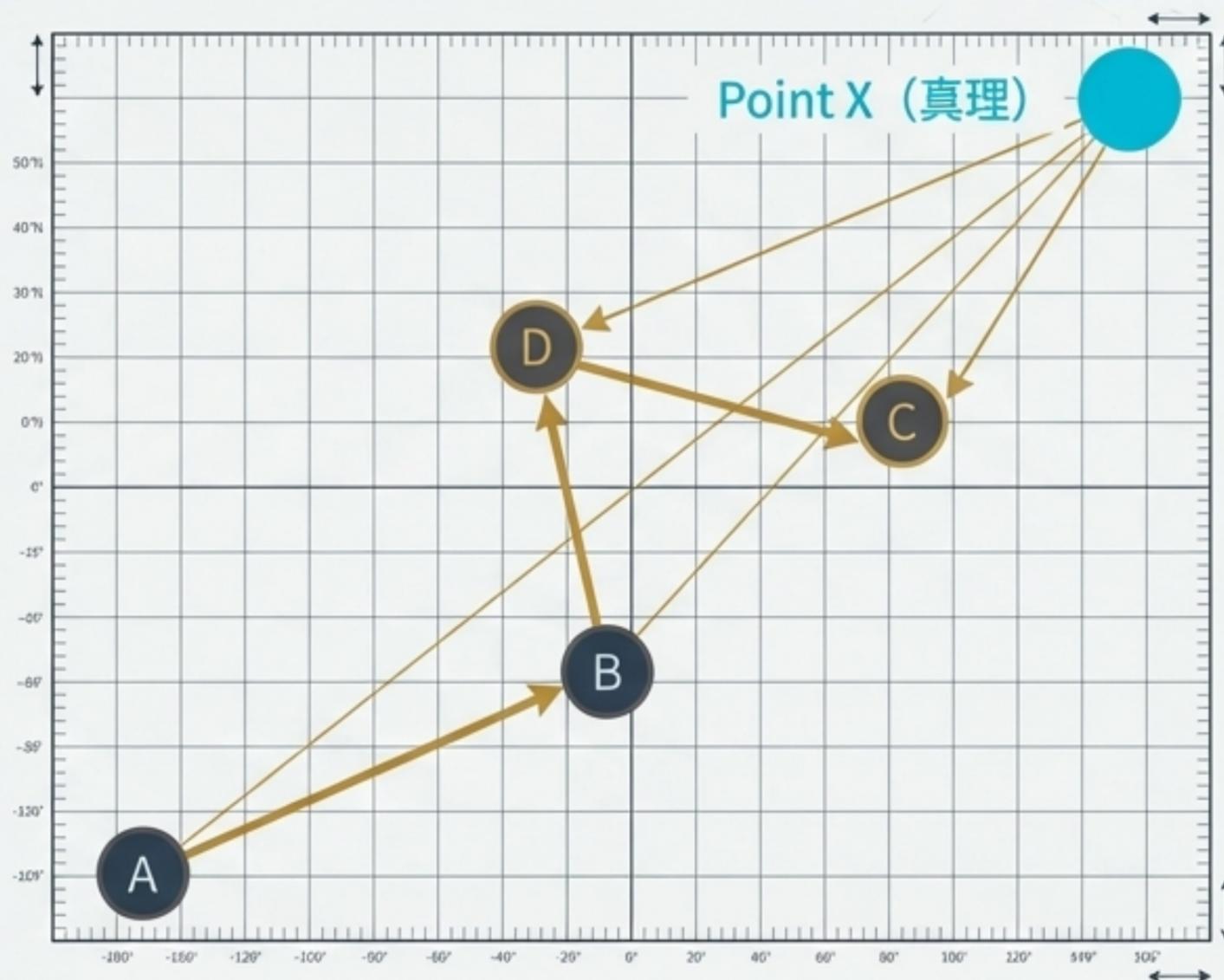
X (真理) に向かう引力は存在するか？

ランダムウォーク



Aから移動を繰り返すが、目指すべきXが存在しないため、
終着点も真実もない。

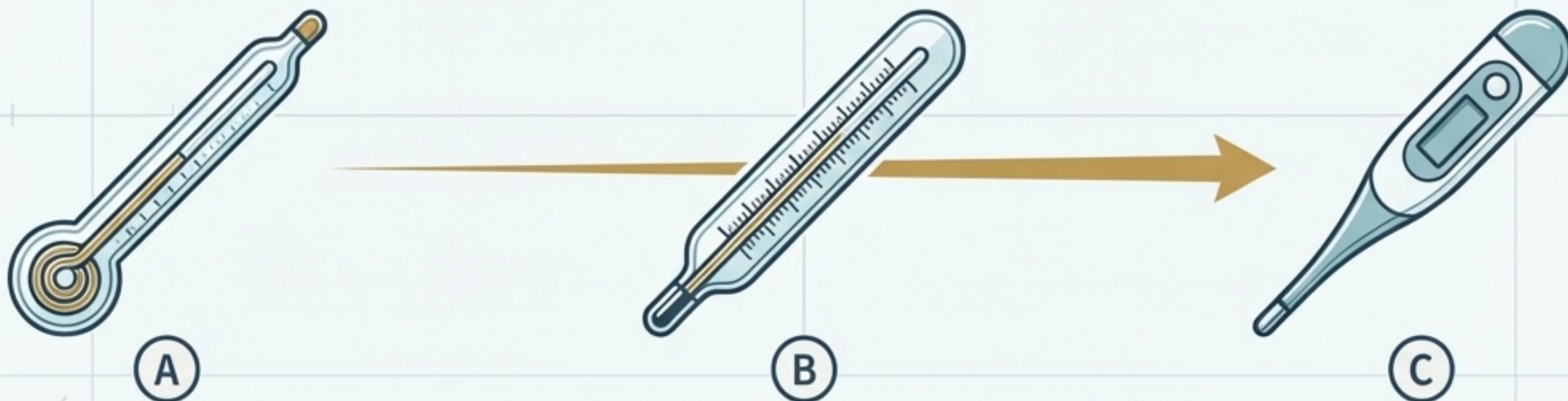
認識的反復



Aから出発し、ジグザグの軌道を辿りながらも、少しずつ
連続的に「疾患の真の定義 (点X)」へと近づいていく。

歴史的証明：真理と測定ツールは分離できる

不変の現実 (Point X): 「熱い」と「冷たい」という状態は、人間が測定する前から存在していた。



測定の進化 (A → B → C): 水銀の膨張は温度そのものではないが、真実を近似するための「優れた方法」として進化した。我々の知識は絶対的ではなくとも、「真の知識」である。

精神医学を定義する2つのパラダイムの対立

	構成主義（ランダムウォーク）	实在論（認識的反復）
メタファー	ルールが変わる「審判のゲーム」	点Xへ接近する「科学的探求」
真理の扱い	存在しない、または相対的	外部に独立して存在する絶対的实在
科学研究の意義	無意味な文化的産物	真実への近似プロセス
倫理的帰結	毒性のある治療を正当化できない	誠実な知識の探求に基づく治療

審判を退場させ、生物学的な実在としての真実へ向かう

精神疾患は、我々の個人的信念や社会的構成物とは独立した「生物学的な実在」である。

無用な審判の比喻は捨て去るべきだ。我々は不完全な道具を用いながらも、認識的反復という現実への道を、誠実に歩み続けなければならない。

Point X